

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ピアチェーレ				公表日	令和7年 2月 5日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		部屋いっぱいにならないよう、時間で区切り入れ替え制にしている。	複数人で行うダンスプログラムなどの場合に狭くなることもあるので、楽器等の配置も工夫しながらスペースの確保に努める。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4			今後常勤非常勤共に増員予定である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		段差等の危険がないようになっている。車いすも通れるようになっている。子供たちにわかりやすいように楽器等並べている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		空気清浄機の設置、換気、消毒を行っている。子供たちのわかりやすいように楽器等の配置等工夫している。	入れ替わり時に時間のないときなどにも素早く消毒等できるように改善方法を会議に手検討していく	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		療育の際に使う部屋は1つのみ。トラブルや体調などの問題で必要に応じて職員室や相談室を使用できるように整備している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	4		毎回療育開始前に目標や課題などを共有し療育に取り組み、終了後振り返りを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎月1回、意見やお子様の様子についてお伺いし改善の必要がある事項については会議等で共有し改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		より効率よく業務をこなしていくため、会議だけでなく普段から話をし、効率よく進めていく方法を模索している		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		今後、第3者評価の導入を検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		毎月療育についての研修、必要に応じて法令で定められた研修等を行っている		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4		現在準備中。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。			支援計画見直しにかかるアセスメントを6ヶ月に1回に加えて、1か月に1度、お子様の様子や保護者のご意見を伺うアンケートを実施し、職員間で共有分析し計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		支援にかかわる職員すべてで情報共有と共通理解し最適な支援方法を考え作成している。		
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		計画案の検討を職員是認で行い、決定している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		月に1度行っている。		
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		お子様の良いところを伸ばしながら、課題とされるものにアプローチしているように細かく設定している。	1つの項目に具体的な支援内容を詰め込みすぎている部分があるので、細かく分析して目標設定を振り分けていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		主要なものはリーダーが決め、必要に応じて意見を出し合い最適なプログラムになるようにチームでの話し合いをして活動に取り入れている。		

の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	ある程度はルーティン化して、子どもたちが次の行動を想像し不安がないように取り組んでいる。固定化しないようにステップアップできるプログラムを組んでいる。季節行事などがある場合は政策なども行	保護者にも意見をいただきながら検討していく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	4	個別・複数人・集団（アンサンブル・ダンス）を取り入れ、自己表現に必要な力をつけ自信を持つこと・友だちとのかわり方・友だちなどという中で自己表現・周りを力などを見て育てていけるように支援している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	毎回療育開始前に目標や課題などを共有し療育に取り組み、終了後振り返りを行っている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	毎回療育開始前に目標や課題などを共有し療育に取り組み、終了後振り返りを行っている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	日報を作成し記録。次につなげていけるように内容をすぐ振り返ることができるようにしている		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	支援計画見直しにかかるアセスメント、モニタリングを6ヶ月に1回に加えて、1か月に1度、お子様の様子や保護者のご意見を伺うアンケートを実施し、必要に応じてモニタリングを実施している。		
	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	4	日々の生活に活かしているように楽しみながら力をつけていけるように、プログラムが固定しないようにアートの活動なども取り入れ季節の制作や感触や色彩などを楽しむ・地域のお祭りに参加し活動を知ってもらい、余暇活動に活かせるような取り組みを行っている。	プログラムの終わりに絵をかわいたり制作をするなど、余暇の時間を設けられるときは取り組んでいく。	
	25	【放デイのみ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	やってみたいこと（楽器・好きな曲）などを自分で決めて取り組んでいる。	保護者から本人の意見を聞くのではなく、本人から聞いて決定していけるように質問方法等工夫していきたい。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	児発管も療育に積極的に参加し子どもの様子を把握し、また指導員からの意見も踏まえて児発管が出席、必要に応じて指導員も出席している。		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		交流の場が少なく連携が取れていないため、今後子どもネット等を通して交流できる場に参加していく。	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2	さんだ子どもネットにて交流し、必要に応じて話し合いをさせていただいている。	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4		交流の場が少なく連携が取れていないため、今後子どもネット等を通して交流できる場に参加していく。	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		療育前後に話をしたり、月に1度のアンケートにて記入いただいたりして共通理解を図っている。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		親子で参加できるようにプログラムを行っている	情報提供については多くはできていないため今後収集しお伝え出来ることは提供していきたい。
	32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	33	【児発事業所・児発センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	34	【児発センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【児発センターのみ】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
36	【児発センターのみ】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		三田市より連絡があり、年間行事等は把握できている。送迎等は行っていない。	三田市以外の情報を共有できていないためホームページ等で確認する。	

	38	<u>【放デイのみ】</u> 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		4		保護者もしくは相談支援員さんのみと情報を共有しているため、今後連携を図っていけるような仕組みを子どもネットなどで協議していきたい。
	39	<u>【放デイのみ】</u> 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		本人中心支援会議を相談支援員さんが開いてくださる場合は移行先の職員の方にも情報をお伝えしている。	←ない場合は相談支援員さんにつないでいただいているため、連携を図れる仕組みづくりを協議していきたい。
	40	<u>【放デイのみ】</u> (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		4		を把握できていない。さんだ子どもネットが協議会の中へ参入できないか、連携を図っていけないかという話もあったので、引き続き
保護者への説明等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		支援プログラム・利用者負担については契約時、変更時、計画作成時に行っている。	運営規定については、誰もが手に取って見ることできるように掲示する。
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		必ずアセスメントを行うようにしている。	
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		えている。	時間がない際は説明が不十分になることもあるため、なるべく時間の確保に努める。
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		療育前後に話をしたり、月に1度のアンケートにて記入していただいた内容について話したりして把握し、必要に応じて面談や助言を行っている。	
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4	会としては設けていないが、保護者が付き添って療育に来てくださるため集団のプログラムの際など交流していただいている。兄弟の参加も承知しており参加していただいている。	
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			今のところ苦情等はないが、あった時のための備えをしておく必要あり
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		月1回お便りの発行、HPで行事などの発信して	SNSについては手が回っていないため、発信していけるように役割分担をしていく。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		注意している。	
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		なるべく意思を把握するために小さなサインを逃さないように気を付け療育を行っている。保護者にも本人の家での様子などを伺いながら気持ちや思考などを把握できるようにしている。	
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		行事へ参加したり、行事の宣伝は行うが招待はしていないため、今後広い会場での開催が可能になった際は検討していく。
	51	<u>【放デイのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		療育前後に話をしたり、月に1度のアンケートにて記入していただいた内容について話したりして把握し、必要に応じて面談や助言を行っている。	
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		HPに掲載・周知を行っている。	訓練等について集団での活動の際に積極的にを行い、避難方法など利用者のかたに幅広く知ってもらえるようにしていく。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		行っている。	訓練等について集団での活動の際に積極的にを行い、避難方法など利用者のかたに幅広く知ってもらえるようにしていく。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。			保護者同伴のため服薬予防接種については把握していない。	
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。			食事の提供等を行っていない。	
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	2		安全計画の見直しを行う。
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	2	契約時に安全確保について説明はしている。	安全計画に基づいての周知は不十分などところもあるため見直し後早急に周知する。

58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		現在ヒヤリハットは起こっていない。	起こった時のために事例検討など研修を通して行っていく。
59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		必要な研修を行ったり外部の研修に参加したりしている。	
60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		契約時に説明をしている。	これまでに起こっていない、保護者同伴のためあったとしても保護者に協力していただくことがほとんどと思うが、いざというときのために再度職員間で確認し周知する。